

【学校教育目標】

主体的に行動する児童の育成

【目標】

- 教科体育の中で、学習規律の1つとして集団行動の共通理解を図り、学習の効率化を図る。
- 単元の目当てを明確にし、身に付ける技能の定着とともに体育が好きな児童が90%を超える。
- 子どもが伸びを感じられる場を数多く設定し、自らが目標を持って取り組もうとする意識を高めていく。

【年間計画】

	4	5	6	7	8・9	10	11	12	1	2	3
教科体育重点領域	低器 中高器	ゲ ゲ陸	全水泳 保保		低走 中高陸	ゲ 走器	低走 中高走	器 器保	器 器保	体 体保	ゲ ゲ
体力づくり					陸上クラブ		持久走・なわとび ドッジボール				
クラスマッチ				水泳						なわとび	

【取り組み】

安全に運動できる場の提供

運動場の北側をドッジボール等のボール遊び、南側をおにごっこやなわとび等の遊びをする場とすることで、多くの児童が安全に運動できるようにしている。



遊びに親しむことで、運動の良さと日常化を図るようにする。

教具の工夫

全学年の学級付きボールにソフトドッジボールを配布した。痛くないので女子児童も進んでボール遊びができ、多くの児童が、投げる、逃げる、受けるという運動をするようになった。

また、運動環境を整えるために、教員にアンケートを取り、子どもたちから主体的に「遊びたい・運動したい」と思えるような環境を整える。



ドッジボール大会

年間2回（12月・2月）ドッジボール大会を実施する。児童自身でチームを作り、休み時間等を使って練習をして、低・中学年、高学年の2つのグループ内でリーグ戦を行い、優勝組を決める。

ドッジボール大会には3つのねらいがある。1つ目は、運動に進んで取り組むことで、基礎体力の向上を目指す。2つ目は、ドッジボールの練習を行うことで、ボール技能の向上を図る。3つ目は、低学年から高学年のすべての男女が参加できるようにすることで、児童の活躍の場の設定を図る。児童に人気の球技であることや、教員や友だちの応援が励みとなり、児童は積極的に参加しており、負けた児童も次回の開催を楽しみにしている。

